

1 現在の委員について

平成24年11月7日に改選を行い、12名（県議会議員2名・市町村長1名・学識経験者6名・農業会議1名・土地改良区の理事1名・公募1名）の方に委嘱している。

任期は、平成26年11月6日まで。

<委員>（五十音順）

井上 直子 会長（葛西用水路土地改良区理事長）
永瀬 隆弘 副会長（埼玉県農業会議副会長）
新井 順子 委員（学識経験者（女性農業者））
加藤 裕康 委員（埼玉県議会議員）
木村 紀美子 委員（学識経験者（NPO法人水のフォーラム会員））
佐久間 明子 委員（公募）
塩野 正行 委員（埼玉県議会環境農林委員会副委員長）
高田 康男 委員（学識経験者（川島町長））
田中 久子 委員（学識経験者（女子栄養大学教授））
谷内 功 委員（学識経験者（元北川辺町助役））
中村 好男 委員（学識経験者（東京農業大学教授））
水上 外美子 委員（学識経験者（社団法人埼玉建築士会副会長））

2 今年度の審議会について

(1) 開催日 平成25年11月27日

(2) 内容

平成20年2月に知事へ答申された「力強い農業を実現するほ場整備のあり方について」を踏まえ平成26年度からの「埼玉型ほ場整備」の本格実施に向け多くの意見の徴集を行うもの。

現地を視察した後、米づくり農家の方々と交えて意見交換を行った。

ア 常光地区竣工記念碑（鴻巣市）
耕地整理事業のモデルとなった明治時代の鴻巣式ほ場整備発祥の地「常光地区」竣工記念碑（明治34～35年実施）。



イ 種足野通川地区（加須市）

県内最大規模の大区画ほ場整備「種足野通川地区」。大正5年に10a区画に整備された後、平成24年に1haを超える大区画化に整備し、現在では地元の生産組織が大規模に営農を展開。



ウ 今泉農園（加須市）

自家栽培のイチジクやブルーベリーでジャムやクッキーを開発し販売。



エ 柳生地区（加須市）

「埼玉型ほ場整備」のモデル地区。低コストで短期間に行うほ場整備を、全国に先駆け平成22年度から平成24年度に実施。



○ 加須市不動岡コミュニティセンター（不動岡公民館）での意見交換



3 主な意見について

- ・ 埼玉型ほ場整備を是非進めてほしい。
- ・ 大規模経営を行うにあたり点在農地を集約するための基盤整備は重要である。
- ・ 農地の大区画化は労働生産性の向上を図るためにも重要である。
- ・ 地域のリーダーシップを図れる人材を育成することが必要である。また、次世代に継承するための支援策を検討されたい。
- ・ 個人経営ではなく、将来的には集落営農や生産法人化等が必要と考える。
- ・ 担い手への農地集積により、主穀個人農業者の労力を他品目（野菜、果樹等）の経営に転換することが必要ではないか。
- ・ 汎用性のある基盤整備であっても水稲単作エリア等の設定が必要である。
- ・ 埼玉型ほ場整備により整備された施設等が、将来整備を行ううえでの足かせとならないようにする必要がある。
- ・ 市町村と連携を図り、将来を見据えた道水路整備等に係る事業投資を考えてほしい。
- ・ 5年後、10年後の姿を見据え、時代の変化に応じた取組みとしてほしい。

○ 集合写真（今泉農園）



○ 集合写真（加須市不動岡コミュニティセンター（不動岡公民館））

